

第 109 回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成 24 年 9 月 11 日 (火)
- | | | |
|-------|--------------|------------|
| 12:00 | 第 109 回総務委員会 | 鉄鋼会館 806 |
| 15:00 | 経産省ヒアリング | 経産省会議室 6 F |
| 16:30 | 業界紙記者と懇談 | 当組合会議室 |

2. 第 109 回総務委員会

出席者

笹田幹雄 (理事総務委員長)
高木 建 (理事長)
酒匂雅信 (副理事長・東京支部長)
高木唯夫 (副理事長・東海支部長)
浅野博之 (副理事長・大阪支部長)
木村昭夫 (副理事長・九州支部長)
臼井美文 (東京支部技術委員長／品質保証分科会主査)
柘野 (事務局)

- 議 題
- (1) 建築構造用鋼材の品質証明ガイドラインの普及に向けた組合活動について
 - (2) 経済産業省 3 Q ヒアリング資料の検討について
 - (3) 第 3 回全国青年交流会の開催概要について
 - (4) 次期通常総会の開催日時・場所について
 - (5) 今後の会合予定について
 - (6) その他

経 過

笹田委員長の司会により議事が進められた。

(1) 建築構造用鋼材の品質証明ガイドラインの普及に向けた組合活動について

臼井品質保証分科会主査 (東京支部技術委員長) より、今後のガイドライン普及事業の進め方を中心に説明が行われ、審議の結果了承された。活動概要は以下の通り。

標記ガイドラインは 2009 年 12 月に発刊され、その後、各団体が主催する講習会が開催されたほか、2011 年 10 月にはガイドラインを補う技術資料である「建築構造用鋼材の品質ガイドライン運用に関する技術資料」が発刊されるなど、普及活動が実施されてきた。

そしてこの度 (24 年 8 月)、ガイドラインの普及状況と課題を把握するために、組合各社にアンケート調査を実施した。その結果、ガイドラインの基本思想に則った普及運用を図りたいが、個社での対応には限界があり、組合として業界 (ファブ・ゼネコン・設計会社) へのアピール・働きかけをして欲しいという多くの意見を得た。

このようなご意見も参考に、また下記の観点より、組合として本ガイドラインの正しい運用普及を推進するための活動について提案する。

- ① 本ガイドラインはシャ－会社の意見・要望の反映結果であり、普及は組合にとって意味がある。
- ② ガイドラインの基本的考え方に反する普及の動きがあり、まだ普及が進んでいない現段階においてその流れを正す必要がある。
- ③ 実際の普及運用のためには検討課題も多く、組合として品質保証タスクフォース（分科会）を再編する形で活動を継続していく必要がある。
- ④ ガイドラインの実際の運用指示は、シャ－会社の直接取引先でない設計会社・ゼネコンが行っており、ガイドラインの正しい運用を推進させるためには、設計会社・ゼネコンと直接対応するファブと共同した検討・連携が必要である。

I. 組合としての活動の目的

- ① 組合一体の活動として推進するために、ガイドラインの基本的考え方^(※1)の組合員への周知を図ること。
 (※1) “仕様含め取引内容を事前に契約書に明記し遵守・履行する”
 “品質保証に関わる付加コストについては有償とする”
- ② 業界内へのガイドラインの基本的考え方に従った正しい運用普及の推進を図ること。（ファブと共同した運用普及活動を推進すること）

II. 活動の組合内体制

・東京支部技術委員(FSC、JFE、神鋼鋼板加工、山惣)及び各支部技術委員(産鋼スチール、渋井鋼材、丸定産業、シャ－リング工場、和東産業)に加え、建築鋼材を取り扱う組合員の中から新たな品質保証分科会メンバーを選定し、ガイドライン普及に向けた種々検討及び活動を品質保証分科会中心に推進する。

・品質保証分科会の検討状況については逐次、総務委員会、各支部へ報告を行うこととし、組合内の情報共有化と組合一体としての普及推進を図ることとする。

・各支部におけるガイドラインの周知・普及活動については、各支部技術委員を中心に展開する。

III. 活動内容

- ① ガイドライン運用のための組合対応方針の作成、普及のための課題検討、及び説明会等の資料検討
- ② ガイドラインの組合員説明会の開催 (ガイドラインの基本思想・考え方、組合対応方針を主とする説明会の各支部開催)
- ③ ファブ(鉄建協、全構協)との運用普及に向けた共同検討 (統一運用化のための課題・問題検討とゼネコン・設計会社へのアピール方法検討)
- ④ シャ－・ファブ共同によるゼネコン・設計会社等への申し入れ・アピール

IV. 活動スケジュール

	H24				H25		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○ 組合内体制整備	▼総務委員会 ▼分科会キックオフ						
① 対応方針・課題検討		—————			- - - - -		
② 全国説明会開催				—————			
③ ファブとの協同				————— - - - - -			
④ 業界へのアピール					—————		

(2) 経済産業省ヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部修正の上了承された。

(資料は別稿参照)

(3) 第3回全国青年交流会の開催概要について

事務局より、来る10月19日(金)開催の標記青年交流会の開催概要に関し、以下の通り説明が行われ、了承された。

- ・日時 平成24年10月19日(金) 13:00～
 - ①見学会 13:00～17:15
 - ②情勢懇談会 17:30～18:30
 - ③交流パーティ 19:00～20:30
- ・集合場所 新大阪駅構内3Fの『千成ひょうたん』前、**12:50集合**
 ※新大阪駅の新幹線中央改札口を出て、左側正面にある『千成ひょうたん』前。
- ・見学会(13:00～17:15)
 - ①新大阪駅から観光バス2台に分乗。
 - ②新梅田シティ(空中庭園)を見学。
 - ③大阪市環境局舞洲ゴミ処理場等を見学。
 - ④大阪鉄鋼会館(御堂筋)着 17:15頃
- ・地区情勢懇談会(17:30～18:30)
 - ①来賓挨拶 浅野博之副理事長・大阪支部長
 - ②講話 高木建理事長、高木唯夫副理事長(東海支部長)
 - ③地区情勢懇談会 地区情勢について報告
 - ④閉会の辞
- ・交流パーティ(19:00～20:30)
 - ①開会挨拶
 - ②来賓挨拶 酒匂雅信副理事長(東京支部長)
 - ③乾杯 加藤純也 東海支部青年会会長
 - ④中締め
- ・参加者総数：青年メンバー36、来賓4、記者他6 計46名。(9/24現在)

(4) 来年5月通常総会の開催場所について

来年5月開催予定の第38期総会の開催場所等について意見交換を行い、候補地として、青森、沖縄、東北等が挙げられたが結論には至らなかった。次回の本委員会にて再度検討することとなった。

(5) 今後の会合予定について

本誌1ページに掲載の「会議・会合予定表」をご参照ください。

3. 24年度3Q経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

山下鉄鋼課長、石神課長補佐他

厚板シヤ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、高木東海支部長、浅野大阪支部長、
木村九州支部長、笹田理事総務委員長、
柘野（事務局）

経過

最初に、高木理事長より、「足元の状況は、6月報告で懸念を申し上げた建産機部門がその後急激な変調をきたし、一転様変わりの様相を呈している。予想を上回る急変で、シヤ需要全体に与える影響は甚大だ。建設分野も低位横ばい状態が続いており、泣かず飛ばずの状況だ。首都圏等の大型建築案件は順調だが、橋梁が非常に悪い。橋梁生産量は24年度で25万ト程度が見込まれているが、うち上半期の開札量が極端に少なく、下期に期待するしかないが、集中すると当方の対応能力にも限界がある。発注をできるだけ平準化していただき、期毎の安定的な受発注体制への移行を切望する。是非お力添えを賜りたい。このように状況が激変すると、来月10月に控えるメーカー統合の影響は、最初1年後くらいに出てくると想定していたが、より早く業界再編の方向に進むかも知れない。内外需も業界動向も先行き決して安閑としていられない厳しい状況が続くだろう。いずれにしても我々は、自主自立の構えで、数量に依存する経営から脱し、付加価値サービスの向上とコスト削減の両立を目指し、個社がそれぞれ生き残りをかけた方策を懸命に追求していくしかない。行政当局には、当業界の窮状をご理解いただき、引き続き内需喚起のための重点施策を途切れることなく打ち出していただきたく、尚一層のご支援をお願いしたい。」との挨拶・要望が行われた。

続いて、各支部長から地区情勢報告があった後、鉄鋼課より、「長期不況下にあって、今後業界再編の具体的な動きは始まっているのか。」「これだけ地域間、業種間、売り先毎、企業間で明暗が混在し、色模様がマチマチなのは珍しいのではないか。」「輸入鋼材のハイレベルな入着増は続いているのか。」「輸入鉄骨の足元の動きはいかん。」等の質問が出され、種々意見交換が行われた。

以上